

**2023年6月改訂(第4版)

*2020年1月改訂

貯法：室温保存

使用期限：外装に使用期限を表示

規制区分：劇薬、処方箋医薬品

注意－医師等の処方箋により使用すること

日本標準商品分類番号

872691

承認番号	22400AMX01119
薬価収載	2012年12月
販売開始	2012年12月
効能追加	2012年11月

尋常性乾癬等 角化症治療剤

マキサカルシトール軟膏25 μ g/g「PP」

MAXACALCITOL Ointment

マキサカルシトール製剤

【禁忌(次の患者には使用しないこと)】

本剤の成分に対して過敏症の既往歴のある患者

【組成・性状】

販売名	マキサカルシトール軟膏25 μ g/g「PP」
有効成分	1g中マキサカルシトール 25 μ g
添加物	中鎖脂肪酸トリグリセリド、白色ワセリン、無水エタノール
色・性状	白色半透明の軟膏

【効能・効果】

尋常性乾癬、魚鱗癬群、掌蹠角化症、掌蹠膿疱症

【用法・用量】

通常1日2回適量を患部に塗擦する。なお、症状により適宜回数を減じる。

〈用法・用量に関連する使用上の注意〉

1日の使用量はマキサカルシトールとして250 μ g(マキサカルシトール外用製剤として10g)までとする。

【使用上の注意】

1. 慎重投与(次の患者には慎重に使用すること)

- 高カルシウム血症及びそのおそれのある患者[本剤の投与によりさらに血中カルシウム値を上昇させるおそれがある。]
- 腎機能が低下している患者[血中カルシウム値を上昇させるおそれがある。]

2. 重要な基本的注意

- 本剤は活性型ビタミンD₃誘導体制剤であり、血中カルシウム値が上昇する可能性がある。また、高カルシウム血症に伴い、急性腎障害の報告があるため、本剤の使用に際しては、**血中カルシウム値及び腎機能(血中クレアチニン、BUN等)の検査**を定期的(開始2～4週後に1回、その後は適宜)に行うこと。なお、正常域を超えた場合には減量又は使用を中止すること。
- 皮疹が広範囲にある場合や、皮疹重症度が高く、皮膚のバリア機能が低下して本剤の経皮吸収が増加する可能性のある患者では、高カルシウム血症が発現しやすく、急性腎障害に至る可能性もあるため、本剤を少量から使用開始し、観察を十分に行い、**血中カルシウム値及び腎機能の検査**を定期的に行うこと。
- 本剤は、通常、投与後6週目までに効果が認められているので、治療にあたっては経過を十分に観察し、症状の改善がみられない場合には、漫然と使用を継続しないこと。

(4)本剤の密封療法(ODT)における安全性は確立していない。

* * 3. 相互作用

併用注意(併用に注意すること)

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
ビタミンD及びその誘導体 アルファカルシドール カルシトリオール カルシポトリオール等	高カルシウム血症があらわれるおそれがある。	相加作用
PTH製剤 テリパラチド アバロパラチド酢酸塩		
カルシウム製剤 乳酸カルシウム水和物 炭酸カルシウム等		本剤は腸管でのカルシウムの吸収を促進させる。

4. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。(再審査対象外)

(1)重大な副作用(頻度不明)

- 高カルシウム血症**：高カルシウム血症及び高カルシウム血症によると考えられる臨床症状(口渇、倦怠感、脱力感、食欲不振、嘔吐、腹痛、筋力低下等)があらわれることがある。異常が認められた場合には使用を中止し、血中カルシウム値、尿中カルシウム値等の生化学的検査を行い、必要に応じて輸液等の処置を行うこと。
- 急性腎障害**：血中カルシウム増加を伴った急性腎障害があらわれることがあるので、血中カルシウム値及び腎機能を定期的に観察し、異常が認められた場合には使用を中止し、適切な処置を行うこと。

(2)その他の副作用

以下のような副作用が認められた場合には、減量・休薬など適切な処置を行うこと。

	頻度不明
皮膚	そう痒、皮膚刺激、紅斑、発疹、湿疹、接触性皮膚炎、水疱、腫脹、疼痛、皮膚剥脱、毛包炎、色素沈着、びらん、浮腫、熱感
腎臓	尿路結石、尿中蛋白陽性、血中クレアチニン増加、BUN増加、増殖性糸球体腎炎
代謝	血中カルシウム増加、血中リン増加、Al-P増加、CK(CPK)増加、尿中ブドウ糖陽性、血中アルブミン減少、血中カリウム減少
消化器	口渇、食欲不振、びらん性胃炎
肝臓	γ -GTP増加、AST(GOT)増加、ALT(GPT)増加、血中ビリルビン増加、尿中ウロビリリン陽性
血液	白血球数減少、白血球数増加、血小板数減少
筋・骨格系	背部痛

5. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているため、使用が過度にならないよう注意すること。

6. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

(1)妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には使用しないことが望ましいが、やむを得ず使用する場合には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ使用すること。[妊娠中の使用に関する安全性は確立していない。また、動物実験(ラット)では胎盤を通じて胎児へ移行することが認められている。]

(2)授乳婦には使用しないことが望ましいが、やむを得ず使用する場合には授乳を避けさせること。[周産期及び授乳期の静脈内投与試験(ラット)において、1.1μg/kg/日投与で出生児に体重増加抑制がみられた。また、分娩後哺乳中のラットに静脈内投与したとき、乳汁中への移行を示唆する報告がある。]

7. 小児等への投与

低出生体重児、新生児、乳児、幼児又は小児に対する安全性は確立していない。

8. 過量投与

徴候・症状

高カルシウム血症の主な症状は、口渇、倦怠感、脱力感、食欲不振、嘔気、嘔吐、腹部膨満感、腹痛、頭痛、めまい、筋肉痛、筋力低下等である。

処置

直ちに使用を中止すること。血中カルシウム値、尿中カルシウム値等の生化学的検査を行い、必要に応じて輸液等の処置を行うこと。

9. 適用上の注意

(1)使用部位

1)本剤は患部にのみ使用し、正常皮膚部位には使用しないこと。

2)皮膚以外の部位(眼、粘膜)には使用しないこと。

(2)使用時

本剤に触れた手で傷口等に触れないように注意すること。

(3)使用后

本剤塗擦後は手をよく洗うこと。

(4)薬剤交付時

誤用(内服等)防止のため、薬剤の保管に十分注意させること。特に、小児の手のとどかない所に保存させること。万一、誤って内服した場合には、高カルシウム血症等の全身性の副作用があらわれることがあるので、医療機関を受診するなど、適切な処置を受けるよう指導すること(「過量投与」の項参照)。

10. その他の注意

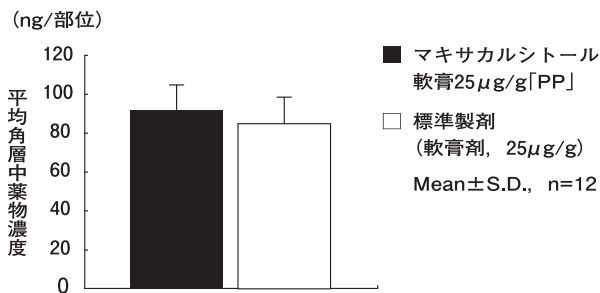
(1)光苛酷試験において、本剤は紫外線(太陽光線を含む)により分解された¹⁾。

(2)がん原性試験においてラット(F344/DuCrj)に1日1回24ヵ月間経皮投与した結果、副腎において褐色細胞腫の発生頻度が増加した。一部、副腎被膜への浸潤を示す例が認められたが、副腎近隣組織への浸潤や遠隔転移を示すものはなかった。また、マウスでは1日1回18ヵ月間経皮投与で発がん性は認められなかった。

【薬物動態】

生物学的同等性試験²⁾

マキサカルシトール軟膏25μg/g「PP」と標準製剤を健康成人男子(n=12)の前腕部内側に単回塗布し、塗布8時間後、テープストリッピング法により剥離した角層中のマキサカルシトール濃度を測定した結果、両剤の生物学的同等性が確認された。



【薬効薬理】

作用機序

マキサカルシトールは表皮細胞に対し、増殖抑制作用や分化誘導作用を有する。

【有効成分に関する理化学的知見】

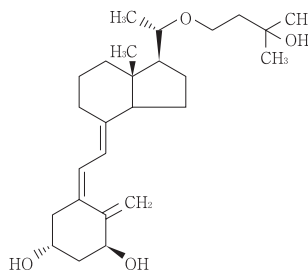
一般的名称：マキサカルシトール(Maxacalcitol)(JAN)

慣用名：22-oxacalcitriol

1α,25-dihydroxy-22-oxavitamin D₃

化学名：(+)-(5Z,7E)-(1S,3R,20S)-20-(3-Hydroxy-3-methylbutyloxy)-9,10-secopregna-5,7,10(19)-triene-1,3-diol

構造式：



分子式：C₂₆H₄₂O₄

分子量：418.61

性状：白色の結晶性の粉末である。

メタノールに極めて溶けやすく、エタノール(99.5)に溶けやすく、ジエチルエーテルにやや溶けやすく、水にほとんど溶けない。

【取扱い上の注意】

安定性試験³⁾

最終包装製品を用いた加速試験(40℃、相対湿度75%、6ヵ月)の結果、本品は通常の流通下において3年間安定であることが推測された。

【包装】

チューブ 10g×1本、10g×10本

*【主要文献】

- 1) サンファーマ株式会社 社内資料：光安定性試験
- 2) サンファーマ株式会社 社内資料：生物学的同等性試験
- 3) サンファーマ株式会社 社内資料：安定性試験

***【文献請求先】**

主要文献に記載の社内資料につきましても下記にご請求下さい。

サンファーマ株式会社 くすり相談センター
〒141-0031 東京都品川区西五反田 8-9-5
受付時間：9時～17時30分
(土、日、祝日、その他当社の休業日を除く)
TEL 0120-22-6880
ホームページ：<https://jp.sunpharma.com/>

(00)

*製造販売元

サンファーマ株式会社
東京都港区芝公園 1-7-6